

# 明治日本の産業革命遺産

～「産業国家」日本の原点 鹿児島～



蘭館山から望む名瀬港

白糖製造工場の背後の山に、工場の建設に携わったイギリス人技師の宿舎があり、西洋人が住まう山ということで「蘭館山」と呼ばれるようになりました。



古仁屋高校「まち歩きガイド」(昨年9月)の様子

瀬戸内町の県立古仁屋高校では、県の地域創生人材育成プロジェクトなどを利用し、文化財や文化を取り入れたガイド活動などを行っています。

写真は、せとうち海の駅に設置されている久慈白糖工場の模型紹介を行っている様子です。

世界自然遺産登録の対象地域である奄美大島にも、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」に関連する遺産があります。江戸時代、奄美大島で生産される黒糖は薩摩藩の特産品で重要な財源でしたが、開国によって白砂糖の商品価値が高くなる

と考えた島津斉彬は、オランダの技術書を参考に白砂糖の製造を研究します。斉彬の死後、五代友厚の提案によってヨーロッパの技術による白糖製造工場が奄美に4カ所建設され、「白いダイヤモンド」とも言える高品質な白砂糖を製造しました。奄美の人々がつくった黒糖や白砂糖は、藩財政の立て直しに大きく貢献し、集



第6回

## 日本の近代化に貢献した「白いダイヤモンド」 白糖製造工場跡・蘭館山(奄美大島)



成館事業や明治維新の資金源として日本の近代化を支えました。「明治日本の産業革命遺産」の県内構成資産(旧集成館・寺山炭窯跡・関吉の疎水溝)や県内各地に残る95の関連遺産は、日本近代化の原点である鹿児島島の歴史を伝えていくものです。皆さんも、お住まいの地域にある遺産を巡ることで、先人たちが次世代に残してくれたこの遺産の魅力に触れてみませんか？

関連情報

### 副読本「かごしまタイムトラベル」

「明治日本の産業革命遺産」の価値を次世代に伝える取り組みの一環として、集成館事業を中心に鹿児島が日本の近代化に貢献した役割などを分かりやすく説明した副読本を作成し、毎年、県内の小学校5年生に配布しています。

県ホームページからもご覧いただけます。



アクセスはこちらから

